

平成 29 年度 第 5 回東京都北区環境審議会 議事要旨

日時： 平成 30 年 2 月 1 日（木） 15:00～17:00

場所： 北区役所 第一庁舎 4 階 第一委員会室

【出席者】

<委 員>

丸田 頼一	会長	細見 正明	副会長	品川 明	委員
秋山 香織	委員	秋山 健太郎	委員	齋藤 邦彦	委員
小山 文大	委員	原 芳子	委員	尾花 秀雄	委員
加茂 守啓	委員	榎本 はじめ	委員	宮島 修	委員
名取 ひであき	委員	石川 小枝	委員		

<事務局>

早川 雅子	生活環境部長	土屋 隆	生活環境部リサイクル清掃課長
佐藤 秀雄	生活環境部環境課長		

【次 第】

1. 開 会
2. 議 事
 - (1) 「(仮称) 第 2 次北区地球温暖化対策地域推進計画 (中間のまとめ)」パブリックコメントの実施結果について
 - (2) 「第 2 次北区地球温暖化対策地域推進計画」にかかる答申 (案) について
3. そ の 他
4. 閉 会

【配付資料一覧】

1. 平成29年度第5回東京都北区環境審議会次第
2. 東京都北区環境審議会座席表
3. 東京都北区環境審議会委員名簿
4. 資料1 「(仮称) 第2次北区地球温暖化対策地域推進計画 (中間まとめ)」のパブリックコメント実施結果
5. 資料2 第2次北区地球温暖化対策地域推進計画 答申 (案)
6. 資料3 「中間のまとめ (案)」から「答申 (案)」への主な変更点
7. 資料4 今後のスケジュール

【傍聴人】

傍聴人 1 名

【議事要旨】

1. 開 会
2. 議 事

< 議 事 (1) >

○事務局 —資料説明—

○委員

資料1の意見No. 6, 7の「都市型レンタサイクルの導入」ですが、今「シェアサイクル」という言葉もよく使われていて、「レンタサイクル」と「シェアサイクル」がどういう違いがあるのかが分からなかったので、教えていただきたい。もし、「シェアサイクル」にも関わる予定があるのなら、できるだけ最新の用語も入れておくと、今後、長く使われると思うので、ご検討いただきたい。

後、意見No. 19, 20の区の考え方とところで、垂直避難施設の「具体的な施設名の公表を控えています」とあるが、やはり区民として本当に困ったときに、どこが避難施設なのかはすごく知りたいが、区が公表を控えることも理解できるので、どこという具体的な施設名までは明示できないまでも、「こういう状況のときにはこういう施設が望ましいですよ」というヒントやアドバイスみたいなものがあれば、大変不安という区民の言葉に対する回答になるのではないかと思います。

また、全体のこの本案について、環境に関わっていない一般の区民の方にとって、ちょっと読み方や意味が分からない用語があると感じました。例えば、パブリックコメントのコーディネーションや、スマートコミュニティーなどに対する説明があるとありがたいと思います。もし、説明の箇所があれば計画案の一番最後の用語解説に含めていただけるとより活用しやすいと思います。

その用語解説ですが、『P. 48 他』などの『他』は、平仮名で『ほか』とかしていただけると分かりやすいと個人的に思いますがいかがでしょうか。

○事務局

「シェアサイクル」と「レンタサイクル」の違いを、事務局でも明確に認識していませんが、「レンタサイクル」は、一般的に言えば貸し出しという形で、事業者が料金を取って、一般の方に貸し出すような仕組みであり、一方、「シェアサイクル」では、複数の人が一定

の自転車を共有して使い、営利がないものもある、そういうイメージかと思います。区の事業でシェアサイクル、レンタサイクルをやる場合は、交通環境になるので土木部が担当になりますが、現在、区の事業としては行っていません。

また、用語につきましては、計画の最後に用語解説を付け加えており、できるだけ分かりづらいと思われる用語については説明を加えたつもりですが、計画になくパブリックコメントに出てくる用語につきましては、加えるのは難しいと考えています。できるだけ、計画の中で使われている、分かりづらい用語については、解説を入れるようにしたいと考えています。

あと、垂直避難施設を公表するか否かにつきましては、防災の関係は危機管理課が担当しており、今の意見を担当部局のほうに伝え区として検討したいと思います。

○委員

用語解説については、拝見しましたが、もう少し解説を入れていただきたい用語もあると感じました。また、第1次計画の用語解説の方が、文字が細かく明朝体で読みづらいところもありますが、形式としては見やすく分かりやすい気がします。文字の大きさなどは、今回のままで形式を1次計画のようにするのはいかがでしょうか。

○事務局

用語解説については、より分かりやすいように工夫してまいります。

○委員

基本方針4の「エコ活動を支える人・コミュニティづくり」で、従来から、子どもの頃から環境教育の推進ということで、生活環境、リサイクルとか環境活動も含めて、施設を利用した形で実施していることは本計画で分かりますが、より北区の子どもたちが全体として環境教育とか、環境学習を受けるとしたら、リーダーの活用もさることながら、教育委員会と連携した方が、より効率的で、より実質的な環境教育ができるのではないかと思います。先生方が大変であることも重々承知していますが、担当課と連携をして、北区全体で環境教育教材等を含めて環境教育を、計画を立てて、小学校等で実施するのがよいと思いますが、その辺の教育委員会との連携について考えを聞かせていただけますでしょうか。

○事務局

「自然ふれあい情報館」という区的环境に関する施設で、環境リーダーの養成講習会を行っており、その卒業生については自然ふれあい情報館で把握しております。その卒業生たちには、学校の授業や自然ふれあい情報館でのイベント、事業において協力、サポートをしていただいております。

それと学校で使う教材も、区が行っている北区環境大学の事業の中で、使用・作成した教材を各学校に提供するようなこともやっております。

当然、子どもの頃からの環境教育は区の環境課の授業だけではなく、学校における授業も大変、大切ですので、今回の計画の改善案の中でも、基本方針の4-2に「子どもの頃からの環境教育の推進」として、学校との連携による環境教育の推進というのを謳っております。区としては、今後とも学校と連携した環境教育を積極的に進めていこうと考えております。

○委員

教育委員会との連携とかはないのですか。できればそういう環境教育が実施されている成果の部分、要するに、小学校や中学校の授業でこういうことをしたとか、成果があるのであれば、計画へも反映していただければと思います。本計画の成果と目標では、学習拠点の利用人数とかの記載だけで、小学校で実際にやっているかなどは記載がないように思いますが、いかがでしょうか。

○事務局

実際に、学校の理科の授業でどのような教材が必要なのかを、区の事業である環境大学で考え、学校と調整しながら作成し、学校側に提供する。あるいは、学校に環境リーダーの養成講座の卒業生を派遣して、ビオトープ等を利用して、子どもたちに自然にふれあいながら生き物の大切さとかを教えるというような連携活動はしております。

今後もこのような教育機関との連携は必要と考えてはおります。

○事務局

環境学習のご質問ですが、毎年、小学校・保育園を中心に、清掃事務所の職員が直接、出前講座をしております。具体的にはリサイクルの体験や、ごみやリサイクルの流れを説明して、いわゆるスケルトン車という清掃の車を使って、ごみの収集の体験を実施しております。これは昨年の3月に小学校の校長会にお邪魔して、「こういうことをやりますよ」とお話しさせていただいて、学校に手を上げていただくやり方でしております。実績としては、小学校4校、保育園14園で出前講座を行いました。

○事務局

貴重なご意見、大変ありがとうございます。環境教育を学校教育の中でやっていくということ、それからお話いただきました教育委員会との連携。これまでもご審議いただいたとおり、非常に大事なところと思っております。後ほど説明申し上げます計画の答申の案で、例えばP.51の4-2「子どもの頃からの環境教育の推進」の中などに、ご説明をしたようなところをもう少し書き込みができるのかどうかを、ただ今のご意見も踏まえまして、

教育委員会ともご相談をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

< 議 事 (2) >

○事務局 —資料説明—

○委員

質問が一つ。まず、最初に資料2 (P.9) 図1-10の「部門別のエネルギー起源CO₂削減目標」ですが、よく見る図ですけれども、これを一般市民の方にお見せすると、よく「なんで産業部門がこんなに多くCO₂を排出しているのに6.5%の削減で、どうして僕たちが4割も削減しなければいけないのか」というような、削減目標を不満に思われて質問してくる方いらっしゃるのですが、北区としてはどういうふうに考えているのかを指示していただけるとありがたい。あと、資料2 (P.5) 図1-5「東京における夏日・真夏日・熱帯夜の推移」について、2015年に熱帯夜の日数がガクンと下がっていますが、その理由が分かるのであれば記載いただいた方が、分かりやすいと思います。

資料2 (P.11)「緩和策と適応策」について、一般論として今、「緩和だけでなく、適応と両輪でやっていかなければいけない」という話を結構聞きますので、文字だけではなく、適応策、緩和策を目立つように、ドン、ドンと二つ並べて、丸とかで出した中で、緩和ってこれだよ、適応ってこれだよというふうにした方が、アピールができるのかなと思っております。その上で、この気象庁、環境省が出しているこの緩和策、適応策の例から北区に落とし込んだ方が、せっかく北区としてやっているのだから、全体的にこういうふうになってますけど、北区としてはこうですよというところを書いていただけると、東京でやってるというだけではなくて、もう少し人ごとではなく捉えられるかなと思います。

資料2 (P.14～)の、現状と動向とかになるんですが、その中で二酸化炭素排出係数が増加したことによって、目標が達成できなかった、基準年度の値を上回っているという「結果としてそうになりました」という話だけが記載されていますが、できれば北区としてというのは少し難しいかもしれませんが、個人や事業所が努力しても、結局、化石燃料を使ったら二酸化炭素って増加してしまうというところと、だからこそクリーンエネルギー、再生エネルギーへの転換が必要で、二酸化炭素排出係数が少ないエネルギーが占める割合が増えれば、私たちが努力する削減目標とかも、ちょっと緩和される可能性があるよというところ。だから、頑張るだけではなくて、クリーンエネルギーへ替えることを推進するの、すごくいいことだよというところも、せっかくここまで詳しく書いているので、北区民にそういう知識を知らせるところで書いていただけたらなと思います。

ただ二酸化炭素排出係数が増えると、ちょっとその目標値が設定しづらいということとか、目標が達成できなかったということだけではなくて、だからどうなのか。どうするのよというところも書いていただけるとありがたいです。

あと HEMS について、最初に出てくるところで読み仮名を振っているのですが、すごくありがたいと思いますが、せっかく P. 35 に HEMS についてのコラムも載せているので、コラムのような目立つところでは、もう一度読み仮名を振っていただくと、読みやすいかなと思います。同時に P. 36 の 3R とかも、分かってる方にとっては当たり前なのですが、もし知らない人がいた場合、読み仮名あった方が、頭に入りやすいので、アルファベット含めて、難しい言葉には読み仮名を振っていただくと読みやすく伝わりやすいと思います。

P. 36 の「エコチューニング」という言葉も、不勉強であまり分からないのですが、この説明とかもどこかに書いてありましたら、「そこを参照ください」と入れていただくと、読んでいて分かりやすいと思っています。

あと P. 49 の「②予防啓発の推進」で、いろいろと北区ですごくいいことやってらっしゃると思うのですが、何となくサラッと、情報提供や啓発を進めます、～を配布しますみたいな感じなので、もう少し具体的に何か、もし可能であれば実施している写真とか、実施している施設の写真とか、やってるなって分かるような資料として、文字だけではなく伝わるものがあれば、アピールになると思っています。

同じ箇所に「高齢者あんしんセンターを通じてクールスカーフを配布します」とありますけど、クールスカーフってなんだろうと思ったときに、こんなのですと分かるような写真やイラストがあり、「これをつけると涼しいですよ」みたいなことが書かれていると、「へえ、じゃ自分も行ってみようかな」と思うのではと思います。ここだけではなくて、せっかくやってることを、もっと北区としてアピールしていただきたいと思います。

あと、以前の審議会で、意見が出たと思うのですけれども、適応策としては熱中症対策が主になると思いますが、まず体作りがすごく大事で、高齢者には特に大事ということが意見として出たと思いますが、本計画の中に、体作りに対しての北区の対策が入っていないように見受けられたので、もし入っていたら教えていただきたいのと、入れなかったのなら入れなかった理由も教えていただきたい。

P. 43 の「2-3 次世代自動車の普及」で、次世代自動車の説明として、環境負荷の少ないハイブリッド自動車等々と書いてありますが、その前に次世代自動車という単語が出てがきているので、最初に出てくるところも、ぜひこの説明も入れていただけるといいと思います。他の言葉でも、ちょっと後に説明があるけれども、初出のところにない場合もあるので、繰り返しご案内いただけると、とても分かりやすいと思います。

細かいですが、P. 53 の「1-3 区民・事業者の連携の促進」の上から 2 番目「パック・トレーを使わない商品を選びます」のパックの後の「・」ですが、普通の点「、」がよろしいのではないかなと思います。いかがでしょうか。その上の「カーボン・オフセット」は、これで一つの言葉なので「・」でつながっているのですが、パックまたはトレーという意味でありましたら、パックの後は「・」ではなくて「、」でよろしいのではないかと思います。

P. 54 「2-3 次世代自動車の普及」についても、北区としては何を次世代自動車に設定し

てるのかをカッコ書きや「何ページにありますよ」という説明などを入れる等していただきたい。特に、行動指針はここだけ見がちな部分でもあるので、ぜひ分かりやすくしていただきたい。「3-3 熱中症対策の推進」のクールシェアスポット等も同様。最初から全部読まなくてもチェックしやすいようにしていただけると、とても活用しやすいと思っています。

○事務局

確かに計画には専門的な言葉が多々出てまいりますので、複数の箇所に用いられている場合は、それぞれに、例えば一つ一つに詳しい説明を加えなくても、何ページ参照とか、何ページにコラムがありますとか、そういったような、分かりやすいように記載の工夫をしたいと考えております。

あと読み方についても、なかなか分かりづらい部分はあります。ただあまり入れすぎるとしつこいこともありますので、それは適宜、対応したいと思います。

用語の使い方につきましても、できるだけ分かりやすく、あるいはパックとトレーの「・」など、そういったものは正しい使い方に再度確認していきたいと思っております。

また、「体作り」という意見がありましたが、地球温暖化に関わるものは本当に広い分野になってきます。極端に言うと、地球温暖化に関する計画には、北区でやっていることを全て入れないといけないのかというようなことにもなりますので、地球温暖化対策の中でも直接的な結び付きが強いものを、施策として、一案として掲げております。そのため、健康分野については、熱中症は、今、注目も浴びており大事なところだと考えておりますので、その対策に関しては体作りとして入れるのではなくて、熱中症について触れる書き方にしております。

いずれにしても、地球温暖化に関することというのは、ここに書かれている内容が全てというわけではありませので、できるだけそういったように資するような取り組みを推進してまいりたいという考え方でございます。

熱帯夜に関しては、事務局ではこの増減の理由については把握しておりませんが、ただ熱帯夜のグラフをみると、落ち込んでいる年は、別に2015年に限らないので、年による差ではないかと思っております。ただ、具体的な要因については、すいません分析してはございません。

○事務局

国の目標値につきましては、直接この目標設定の際の公表資料を見たわけではありませんが、一般的によく言われているのは、日本の製造業は、オイルショック以降、相当に省エネ性能をあげ高いレベルに達しており、象徴的によく言われるのは、製造業部門はもうかなり乾いた雑巾の状態になっていると。そのため、削減の余地がもうほとんど世界レベルでみても少なく、むしろ、近年は家庭部門、業務部門がかなりの勢いで増えてきてい

るため、そこに大きな削減ポテンシャルがあるのではないかということで、このような設定になっていると伺っております。

○委員

ありがとうございます。もし可能でしたら、そういったエピソードみたいなのところも入れていただくと、よりこのグラフが分かりやすくなると思います。なぜ北区として、そこまで家庭部門に力を入れて削減しなければいけないのか。私たちがやらなければいけないのかっていうところの説得力にもなると思います。まず国の目標があり、だから北区はそれを受けて、こういう目標を立てましたとつながるような形で説明すると、何も北区だけが厳しいことやっているわけではないとわかると思うので、ぜひよろしく願いいたします。

○事務局

記載の仕方について、また検討させていただきたいと思います。

○委員

P.9「パリ協定」について、「各国の削減目標」の表の中にアメリカが入っていますが、現在脱退を表明しており、また戻ってくるみたいなこと言われていますが、この計画書を区民に、ある種、教育にも使っていただきたいという視点でみると、現時点の話であり、アメリカのこの数値目標含めて当てにならないことを、注釈として書くべきではないかと思いました。

P.44「ライフサイクルアセスメント」について書いていただいてありがとうございます。ただこの青線のグラフは、棒グラフは、ライフサイクルアセスメントをよく理解していただく意味では、ガソリン車と燃料電池車と、ハイブリッド車と、それぞれ使われている部品が違うので、その部品を作るのにどれぐらい二酸化炭素を出したかを、色を変えて表現すべきだと思います。棒のグラフが、これが本当に正しいかどうかも疑問ですが、燃料電池を作る時点で、レアメタルを掘るのにどのぐらいの二酸化炭素を排出してるのか。そこまで含まれていますか。質問です。

それからその下の表がありますけれども、メーカー各社の資料をもとに作成したとありますが、これは最後、廃棄となっていますよね。ガソリン車がここまで行くのに、走るのに、二酸化炭素を排出するのは分かります。燃料電池車、ハイブリッド車が、それが少ないのは分かります。けれども、これを廃棄するとき、どのぐらいの燃料を使うか。単にエンジンを溶解して、鉄のくずに戻すのと、電池を処理して、モーターを処理して、それぞれの物質に戻すのと、その廃棄のときにどのぐらいのエネルギーがかかるかを含めて、ライフサイクルアセスメントだと考えれば、その廃棄まで、廃車で止まっているのはおかしい。この時点での燃料、二酸化炭素の排出量も出てないとおかしいです。だからこの表

は、確かにこのような傾向でしょうけれども、もう少し細かく、目に見える形で表さなければ、ライフサイクルアセスメントとはなんぞやという説明になってない表だと感じます。色を分けるべきだと思いますが、どうでしょうか。

○事務局

確かに廃棄までしかカウントはしていません。その後のこともきちんと把握すべきというご意見につきまして、どこまで正確に出せるか、ちょっと分かりませんが、このデータにつきましては、持ち帰りまして、再度、根拠等を、より正確なものにしていきたいというふうに思っております。

見栄えにつきましても、できるだけ分かりやすい表記あるいは誤解を招かないようにするのは、この表に限らないことかと思しますので、その点で再検討させていただきたいと思っております。

○委員

ライフサイクルアセスメントの例であれば、こういう異質なものではなく、説明をしやすいものを選んだ方がいいと思います。例えば、同じトラックで、ある飲料を運んでいましたと。それがびんで運んだときと、ペットボトルで運んだときで、運べる量はこのぐらい違う。ただ、びんのほうが重たいから、二酸化炭素を排出する。びんは、容器は洗って何度でも使える、一方でペットボトルはリサイクルしないといけない。原材料としては、ペットボトルはポリエチレンテレフタレート、ガラスはケイ素で差がある。各段階において優劣を表す方が、比較しやすいのではないかと。同じ条件で比較できる方が分かりやすいと思います。自動車と、ガソリン車と燃料電池車は、これはもう全く別物だと個人的には思っていて、新しい燃料電池車なんか多分運転できないと思います。どこをどういじっていいのかわからないから。そういうものの比較よりも、私たちの生活に近いもので比較するほうが分かりやすい表になると思いますが、いかがでしょうか。

○事務局

ライフサイクルアセスメントの代表例として自動車を挙げましたが、当然、ライフサイクルアセスメントは自動車に限った話ではないので、区民の方にとって身近なものの方が分かりやすいかと思っております。この表につきましても、実際、次世代自動車の普及がありましたので、自動車のライフサイクルアセスメントを記載させていただきましたけれども、こういったような記載が適切なのか、あるいは他のもっと身近な例がいいのかどうかを再度検討させていただきたいと思っております。

○委員

すいません。この段階において、新たなことを言って申し訳ないですけど、これはライ

フサイクルアセスメントという言葉を理解していただくほうが、私はいいと思います。車を悪くいう話ではなくて、既に作ってある中古車に乗るほうが、余程二酸化炭素を出さないと、僕は考えています。個人的にはこの考え方を定着させるほうがいいのかと思います。その考え方をもって物選びをし、いいものを長く使うことにつながると思うので、人が選択できるようなものを書いていかなければいけないのではないかなと思います。この比較は、あまり適当ではないと思いました。

○事務局

大変ご意見ありがとうございます。委員からライフサイクルアセスメントのところ、ずっとご指摘をいただきまして、大変、恐縮です。事務局も大変苦勞して、この図を入れさせていただきましたが、さらに、そういう分かりやすいものがあるのかどうか。少し時間のない中ではございますけれども、会長ともまたご相談をさせていただいて、どこまで可能かということもございますが、もう少し考えさせていただきたいと思います。

○委員

P.9の「パリ協定」のアメリカの脱退表明に関してはどうですか。

○事務局

そちらも、現状の図はその協定締結当時のところを書いているかと思いますが、説明の中で現状を加えられるかどうかにもさらに検討をさせていただきたいと思います。区民にとってより分かりやすくなるように、再度、工夫をさせていただきたいと思います。

○委員

ライフサイクルのことは、その通りだと思いますが、例えばこのP.44のグラフを出すと、区として、次世代自動車として積極的に燃料電池車を推薦していると思えます。本当にそうであれば、もちろん結構ですが、ここ1、2年の業界の動きは、ほとんど電気自動車のほうにシフトして、産業界もそうなっているときに、これを今から挙げるのは、そういう意味では不適切かなと思います。ただ、区として本当にどうしようとしているのかというのは、やっぱり見せてもいいかなと、私は思っています。

それからもう一つ、今まで疑問に思っなくて、ちょっと気づいたのでお尋ねしたいのですが、将来、北区において人口問題とかが予測されていて、かつ世帯数が増加するから、家庭部門がこうだという文章が2カ所ぐらいありますが、区の予想としては世帯数が増えていくのか。人口はどうなるのか、その辺はかなり確かな予想となっているのでしょうか。これは、私の勉強不足で申し訳ないですけど、北区の特徴として、世帯数が増えていくのかという。多分、人口はそれほど増えないのではないかなと思いますが、どうでしょうか。

○事務局

資料編の P. 62 の「人口」の部分で、今後の見込み、推計値を記載しておりますが、P. 62 の上のほうのグラフでいいますと、2015 年の実績値で 34 万 1076 人が、2020 年には 34 万 3667 人まで増える。2025 年には減少に転じております。これは北区の人口ビジョンより引用しております。

P. 63 の世帯数は、先ほどの人口をもとにして今後の世帯数の見込みを出しますと、2015 年の実績は 17 万 8379 世帯、2020 年には 18 万 3897 世帯、2025 年には 18 万 4292 世帯と増えていくと見込んでおります。

○委員

排出係数・外的要因に左右されないエネルギー消費量について今回の計画の中に入れており、2013 年は 1990 年度と比較して 18.4%削減したとなっております。その内訳をみると、産業部門が 18.4%のうちの 17%ぐらいあると思うので、それだけで第 1 次目標は達成した、大きく減ったと見えるのですが、実は家庭部門は、この中で 10%程度増えている。でもこれは世帯数が、この 1990 年から 2013 年の間に、過去にいただいた資料だと確か 20%ぐらい増えてると思います。

1990 年と 2013 年の部門別の比較が、今回の資料の中にはないのですが、せっかく、約 20%世帯が増えてるのに、二酸化炭素の排出量は 10%程度の増加で何らかの努力によって収まっているので、それを文章でも、あるいは今回の指標の表などに参考値として入れた方がいいのではないかと思います。いかがでしょうか。

○事務局

第 1 次計画の目標達成状況は、一応、P. 15 に記載しており、P. 16～部門別ごとの二酸化炭素の排出量推移を記載しております。それに対応する、例えば人口推移や世帯数の推移、産業で言えば事業者数の推移などは、同じページには確かに記載してはおりません。単に結果を示してるところではございますけど、目標達成状況の部分でどの程度書き込めるのかは、また考えさせていただきたいと思っております。

一方で、二酸化炭素の排出量では、外部的な要因が大きく分かりづらいことがありますので、第 2 次計画では、エネルギー消費量について目標設定しております。

○委員

あと一つ、以前の審議会の資料では、P. 28 のグラフ・表に現状趨勢の値が記載されていたと思います。そのときは、各部門の現状趨勢が分かったので、例えば、家庭部門の現状趨勢では増加していくので、目標がマイナス 2%でもいいのかと思えましたが、今回配布いただいた資料だと現状趨勢がなく家庭部門の目標がマイナス 2%というだけが載っていると 2%は少ないのではないかと思います。先ほどと同じように、世帯数がこの先も増え

ていく、5%ぐらい増えていくと思いますが、それに対して 2%の削減なので、より良い、より高い目標にしていることが分かるように、その辺もご検討いただければと思います。今の段階で恐縮です。

○委員

この計画の配布形態っていうのは、この本編のみなのか、あるいは概要版みたいなものが出るのか、もし分かれば教えてください。

○事務局

この第2次計画の本編、資料編は、図書館などに配置し、ホームページで公開いたします。概要版につきましては、本当に簡単な、それ1枚で分かるようなものを作りたいと考えています。それについても、ホームページで公開したり、図書館などに配置したり、配布したりとかしてまいりたいと考えております。

○委員

ありがとうございます。先ほど、ちょっと説明を伺っていて、何ページのどこ、何ページのどこって見ていて、だんだんどこを見ているのか分からなくなり、これをご覧になる区民の方も同様かと思います。例えば、基本方針でこういうふうに行動していくといいですよというところを、ページの端っこの部分に色を付けるとか、視覚的にメリハリを付けると、分かりやすいのかなと思いました。以上です。

○委員

今日も雪の予報があったので、思い出したのですが、この中で温暖化からくる大雪の影響や対策がないのですが、北区としてはどのようにお考えでしょうか。

北区は65歳以上がとても多いので、雪が降ったときに、マンションもそうですけども、戸建てにお住まいの高齢者の方とか、雪かきに慣れてないのもありますごく大変だったとか、また道路に雪が残っており、足元がすごく危ない等がございます。北区、坂道も多いので、そういったところに対して、北区として何かお考えがありましたらお伺いさせていただきたい。もし、地球温暖化の計画にも北区として載せられるようであれば、ご検討いただきたい。区民として、こういうことをしてもらっているから、じゃあ頼りにしようとか、逆にこういったところは気を付けようみたいところで盛り込んでいただくとありがたいなと思っております。

○事務局

地球温暖化の気象への影響等や北区への影響に関しては、気象というのが広範囲にわたるものと考えておまして、今回の雪も、本日も北区だけに限らず、東京とか埼玉とか、

非常に広範囲に降るだろうと予想はされており、北区に絞ることは難しいと考えております。北区というよりも地球温暖化の影響として、第2次計画ではP.3,4の「地球温暖化の影響の概要」でイラスト等を載せて、できるだけ区民の方に分かりやすいようにお示しをしています。

また、おっしゃる通り北区は高齢者人口が多いので、当然、雪が降れば足元が危なくなりますので、その対策としては、環境部門だけではなく区として何ができるか今後の課題として検討していきたいと思っております。公共交通機関のあり方ですとか、住宅のあり方ですとか、道路とか、道路の舗装のあり方だとか、いろいろなところに影響が出てくると思っておりますので、一概にこの地球温暖化の計画の中に何か書き込むのは、少し難しいと考えております。

○委員

ありがとうございます。お答えしにくい質問をしてしまって、申し訳ありません。ちょうど大雪が続いておりましたので、一応、お伺いさせていただきました。特に北区、特別に大雪がっている、そういうデータが出ないのも分かっておりますので、今後、異常気象などが増えていくという傾向がある中で、いろいろと対策なども参考にさせていただけたらなというふうに、区民として思っております。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

3. その他

○事務局 ー資料説明ー

○委員

本日の次第は全て終了した。

これにて平成29年度第5回東京都北区環境審議会の議事を終了とする。

4. 閉会

以上